

令和7年度第1回 新潟市子ども・子育て会議 会議概要

開催日時	令和7年8月27日（水）午後1時00分～2時45分
会 場	白山会館 2階 胡蝶
出席委員	茨木委員、植木委員、小池委員、郷委員、小林委員、坂上委員、三條委員、椎谷委員、鈴木委員、関委員、違委員、長谷川委員、深海委員、藤田委員、星井委員、眞杉委員、山岸委員 (出席17名、欠席3名)
事務局 関係課 出席者	こども未来部長、こども政策課長、こども家庭課長、 幼保運営課長、幼保支援課長、児童相談所所長、 教育総務課長、学校支援課長、生涯学習推進課長 他 各課担当者
傍聴者	0名
内 容	【議事】 (1) 現行アクションプランの進捗状況・評価について 資料 1-1 新・すこやか未来アクションプラン（第2期計画）の成果指標 資料 1-2 新・すこやか未来アクションプラン（第2期計画）の進捗管理調書 資料 1-3 子どもの未来応援プランの進捗状況一覧 ○事務局より、現行アクションプランの進捗状況・評価について、説明を行いました。 ○委員からは、次の意見・質問がありました。 (小池会長) ご説明ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明につきまして、皆様の方からご質問やご意見等ございますでしょうか。 (植木委員) 丁寧なご説明ありがとうございました。資料1-2の6ページ、事業通番の83番、「こころん」の巡回相談について質問いたします。園や放課後児童クラブを訪問するところありますが、巡回支援は保育所等に限らず放課後を利用できると認識をしております。この訪問件数432件のうち、放課後児童クラブの割合がどの程度あったか、件数は増加傾向にあるのか、の2点について教えてください。

	(事務局) 数としては増えていく方向傾向にあるものと認識しておりますが、手元に資料がございませんので、大変申し訳ございませんが、後ほどご報告させていただきますと思います。 (植木委員) ありがとうございました。放課後児童クラブの現場からは、発達に課題である範囲の対応について、その対応や方向性等について教えていただきたいという声が多く聞こえてまいりますので、今後もこの事業を含めて支援を進めていただけると幸いです。 (事務局) ありがとうございました。私どもも少しずつ強化していきたいと考えております。支援員の方も発達に課題のあるあの児童さんが、ひまわりクラブなどにいる場合は支援を強化する方向性ですし、巡回支援についても、こども政策課に教員 OB もいますので、「こころん」の職員と一緒に現場へ出向いて適切な指導が行えるよう取り組んでいるところでございますので、そういった対応を今後も継続していきたいと考えております。 (違委員) 資料の 1-2 の 7 ページ、事業通番 88 番の放課後等デイサービスについてです。これが前年より人数とかそういうのが増えれば A になるのか、入りたい人が入ることができたら A のかを教えてください。小学校の低学年とか重度の方は利用・活用しているというイメージがあります。けれども、年が上がっていく中学年、高学年、中学生はなかなか内容ですとか時間が合わなくてスポット利用などもできなくて利用ができていないと思っていたため質問させていただきました。 (事務局) ありがとうございました。こちらの細かいの中身につきましては、障がい福祉課が同席しておりませんので後日お答えさせていただきます。 けれども、先ほど植木先生の方からもお話がありましたけれども、近年放課後児童クラブを利用されている方の中でも、放課後等デイサービスを合わせて利用されているお子さんがいらっしゃるというお話は聞いております。 特にあの街中の方はいいんでしょうけれども、特に郊外の方のクラブになってくると、近くに放課後等デイサービスがあまりないということで、掛け
--	--

持ちしにくいとか、なかなか利用できないといったお話はお聞きすることがございますので、これらの充実につきましては、障がい福祉課とも意見交換しながら、適切なサービスにつながるように考えて参りたいと思っております。

(深海委員)

同じページの 88 番の放課後デイサービスについてですが、うちのこどもが来年小学 1 年生になるのですが、放課後デイサービスを探しているんですが、見つからない状況で、どもに行っても、いっぱいですとか 1 月まで待ってくださいと言われて、えっと入れるのかな？入れないのかな？どうしたらいいのかなと感じた。このような困ってる人がいる状態で進捗状況が A になるのかなと、そういう感想を持ちました。

(事務局)

確かにご意見の通りという部分があると思いますので、ただいまのご意見などもえ障害福祉課長の方にもお手伝いまして、えよりサービス充実したサービスが提供できるように考えてみたいと思います。

(長谷川委員)

1-2 の 4 ページの 55 番、交通安全教室についてなんですけれども、保育園幼稚園さんですと園の方でやってると思いますし、小学校だと結構 PTA が実施していることで数字が上がってると思いますが、中学校が特に実施率が 41.4%と低いところで、学校の方に実施を依頼しているのか、それとも PTA とかで計画してほしい、すれば実施率が上がるのか、ちょっとその辺がどちらなのかと感じました。もし PTA の方で実施してほしいということであれば、市 P 連の方から働きかけとかもできると思いました。

(事務局)

ありがとうございます。私も過去に交通安全を担当する部署にありまして、その時は学校や幼稚園保育園にダイレクトに「やってみませんか」とご案内をさせていただきました。その時は中学校まで、幅広ではやっていなかったもので、今は学校現場の方でダイレクトに学校の方に依頼しているのか、それとも PTA を介してなのか、情報を持ち合わせていません。今お話のあったことも含めて、教育委員会。それから市民生活部の方に確認をします。交通安全は大事なことでとは思っておりますので、注意 1 秒、怪我が一生じゃありませんけれども本当に大事な政策だと思っておりますので、その辺確認しな

がら、中学校の方でも普及拡大実施ができるようにご協力いただけるような働きかけを考えたいと思っております。

(事務局)

私は元々中学校の現場で働いておりました。けれども、中学校に直接依頼はあまりえないのではないかと思います。私の記憶レベルのお話になって大変申し訳ないのですが、中学校も授業実施数等も決まっております中で、この交通安全を取り入れるかに関しては校長の裁量。あとはPTAの方々との協議の中で一コマ設けるという形が現実的なのではないかなと感じました。

(椎谷副会長)

私、交通安全指導員をやっております、交通安全指導員が何うことになっているんですね。中学校で依頼があるとまず区役所に行って、それからたくさん区の方にご案内しておりますので、まとめていくということになっています。実際、中学校の数が非常にも少ないということで、色々法律も変わってきていますし、自転車に乗って例えば携帯を使用していると、減点だけではなく、大変なことになるということをしっかりと中学生に伝えていかなくちゃいけないので、義務になっていった方がさらにいいのではないかなという風に思っております。PTAで行う例もありますが、ほとんど交通安全指導員という研修を受けたものが行って指導をする形です。

(長谷川委員)

PTAが行うというか、PTAの方がPTA行事として実施しているところが小学校はすごく多くて、地域のボランティアさんをお願いしたりすることがあります。やっぱり中学生の場合は高校生になって自転車で通学っていうことを考えていくと自転車に乗っていると加害者になる得るところで、うちの近くの東高校の辺りではやっぱりすごいマナーとかっていうところがあるので、もし義務化っていう風に考えていった方がいいのかなとは思いますが。例えば市P連の方で各中学校のPTAさんの方に働きかけると、もう少し実施率が上がっていくのかなと思いましたので、持ち帰って市P連の方でまた検討させていただきたいと思います。

(郷委員)

この交通安全教室についてですが、小学校は各小学校に交通安全推進協議会などの会があります。おっしゃるように、中学生自転車通学の人が増えてきています。そしてかつそれから部活の地域移行になってくると、自分の校

	区以外に参加のために自転車で行くといった場面たくさん考えられるので、各区警察署の警察協議会に相談して、中学生の自転車に乗り方とか本当ルールとかあの自転車に関しては法律が変わってきているので、そういったことの指導をあの警察の方からもお願いしますことを伝えてます。 (小池会長) ありがとうございました。皆様から頂いたご意見を聞きながら多分、あのどこが主導で学ぶ機会を中学生に提供するのが整理できていない印象でしたので、学校がリードしてやるのか、教育委員会がリードしてるのか、そこでPTAと協力しながらやっていくのかっていうことについてはちょっと整理が必要と思います。自転車の乗り方も含め、どういうものを身に付けていくと交通安全につながるのかを学ぶ機会っていうのを全ての中学生たちに作っていけるとありがたいかなと思います。 それでは続きまして、議題の２点目、こどもの意見形成支援事業につきまして、事務局から説明をお願いいたします。 (２) こどもの意見形成支援事業について 資料 2 新潟県立大学と新潟市の包括連携協定に基づく 「こどもの意見形成支援」事業について ○事務局より、こどもの意見形成支援事業について説明を行いました。 ○委員からは、意見・質問はありませんでした。 【報告事項】 (１) 子ども・子育て会議委員の改選について 報告資料 1 (令和７年９月以降)新潟市子ども・子育て会議委員名簿 ○事務局より、子ども・子育て会議委員の改選について説明を行いました。 ○委員からは、意見・質問はありませんでした。 (２) 幼保部会の開催報告について 報告資料 2 令和７年度 第１回 新潟市子ども・子育て会議 幼保部会 会議概要 ○事務局より、幼保部会の開催報告について、説明を行いました。
--	---

	○委員からは、意見・質問はありませんでした。 (小池会長) それでは予定しておりました議題については以上になりますが、この後、この会議で委員を終えられる方々はこの後ご発言の機会がありますので、そうではない方で、今日ご発言の無かった方に一言だけ感想でもいいので、ご意見いただけるとありがたいです。藤田委員いかがでしょうか。 (藤田委員) 母子福祉連合会の藤田です。ちょっとまとめ切れていないので、後日質問とさせていただきますと思います。 (小池会長) はい、ありがとうございます。次に関委員いかがでしょうか？ (関委員) 関でございます。本日の会議ありがとうございました。子育て分野について他の委員の方から大体ご発言いただいた部分もありましたので、非常に有益だったかなと考えております。私については引き続き委員を務めますが、今後新たに大学生の委員が加わるとのことで、新しい目線を参考にしながら発言していきたいと思います。 (小池会長) はい、ありがとうございました。次に鈴木委員からいかがでしょうか？ (鈴木委員) 資料の1-2、事業通番50の道徳・福祉教育における、いじめの未然防止に向けた教育プログラムについてです。小中学校に行ったという記載があって、その内容がどのようなものか教えていただきたいです。私は企業に関わってるんですけど、働く人たちの中でもハラスメントが今ものすごく増えていて、その研修の要望があるんですけど、構造としてはいじめみたいなものと似たようなものを感じます。 いじめの相談件数もものすごい増えている中で、結局ストレスをどう対処するか、正しい心の持ち方作り方になってくると思うんですよ。この間我々が話してたのは、安全に働くという文脈での話だったんですが、作業する人である前に人としてだよ。という話になりまして、人間力っていう話にな
--	--

りました。働く人たちを対象にどう育てていくかという課題のところ、こどもたちに対する未然防止プログラムがどんな感じで作られてるのかな、ということにすごく興味がありますので、教えていただきたいと思います。

(小池会長)

ありがとうございました。回答は後ほど事務局からお願いいたします。では三條委員お願いいたします。

(三條委員)

私も交通安全のところちょっと気になっていたのですが、中学校は教室というところで本当に意味があるのか、教室ではなくてもおそらく交通安全指導であったりとか進められていると思うので、教室という形の意味合いというのはちょっと必要性があるかどうかについて、中学校の先生たちや学校の事務の中で考えていきたいと思います。小学校は非常にやっぱり有効です。教室をやってゲストティーチャーが来てくださるということで、非常にこどもたち興味関心が湧くので非常に良い取組と思っています。私もう1つ実は興味関心があったのが、こどもの意見形成支援。このフィードバックっていうのは非常にやっぱり大切だなと思っていて、これから実施されていく中でお聞かせ願いたいなと思ってます。モデルケースをどう活かして発展させ、推進していくとったあたりを興味深く見させていただきたいと思います。

(小池会長)

ありがとうございました。次に小林委員お願いいたします。

(小林委員)

初めて参加させていただきました。市社協の「こども・子育てサポートセンター」の中では、ファミリーサポートセンターと母子生活支援施設と、こどもの居場所支援事業とこどもの居場所ネットワーク事業を行っています。また、子育て世帯訪問支援事業として、一人親家庭だったり、複雑な課題がある子育て家庭の支援を行っています。運営にあたりまして、新潟市に大変参考お世話になっておりまして、いつもありがとうございます。

各区の健康福祉課の相談員と連携させていただくことが多く、このようにアクションプランの方に結果が反映されていることを確認しましたので、持ち帰って、私たちが現場でどのようにやっていくと、ここがもう少しこう件数が増えるですとか、%が増えるってところをより一層力入れていけるよう検討したいと思いました。また、私もこどもの意見形成支援について、とても

興味がありますので、是非参加させていただければと思いました。

(郷委員)

アクションプランの評価について、市の施策が見えない分野があると感じまして、例えばこども食堂支援についてですが、場所によって回数が少ないけど参加人数が多いとか、回数は多いけど参加人数は少ないとか。うちの地域でやってる時は回数が少ないんですけど、人数は毎回 100 人越えています。そこで、それぞれに対応した支援があるとありがたいし、もう少し手厚くしていただけると嬉しいです。

また、資料 1—2、4 ページの 46 番、地域と学校パートナーシップ事業について、1 校当たりの学校支援ボランティアの延人数が目標達成ということになっているが、延べでいいのかと感じました。どの学校でもボランティアが高齢化・固定化といった課題があり、若い方々は皆さんお仕事してらっしゃっていて、その中でこの先に継続していくには別の指標もあるのではと感じました。

(小池会長)

ありがとうございます。次に茨木委員お願いいたします。

(茨木委員)

新潟市民生委員児童委員協議会連合会から参りました茨城と申します。皆様が言ってくださったことで全てみたいな気がするんですけども大変申し訳ございません。私も感じましたのは、こどもの意見形成支援事業。これに関してなんですけれども、秋葉区でも若者の居場所を作りとか、あるいは区長が学校に出かけて、こどもたちの意見を聞いて行政に取り入れるとか、非常に積極的に取り組んでおられます。そういうことを聞きながら、今日このこどもの形成支援事業が実施場所として児童館を選んでいただけたのは、こどもに身近な施設ですので、とても良かったと感じています。ただ、その児童館の増営に関連して、どのようなこどもたちの意見を取り入れていくのか、この岩室児童館さんは本当に積極的に色々な活動を取り入れているいらっしゃる場所ですので、とにかくいろんな意見を取り入れる場所はあると思うんです。どのような観点からこどもたちに考えてもらい、意見を聴取するのかっていうのは、どの場面でもとても大切になってくるかと思います。事業の成果発表会に参加させていただきたいと思いますし、ますます新潟市のこどもたちがより良い方向に向かって生きていけるようにということを感じさせていただき、ありがとうございました。

	(小池会長) ありがとうございました。皆様から頂いたご意見を関係課の方に情報共有いただきながら、施策の中で反映していただきたいと考えております。それでは、1 番初めに植木委員からのご質問がありました放課後児童クラブへの訪問件数の数字について事務局からお願いいたします。 (事務局) こども家庭科の佐藤でございます。先ほどお答えできませんでした児童発達センターの巡回相談の件数についてご報告します。この巡回相談はあの依頼のあった市内の園、それから放課後児童クラブなどから、依頼があった場合に巡回支援専門員と言われるその支援センターの職員が出向いて相談を行うものでございます。 訪問時に相談に応じたこどもの数、これを支援件数としておりまして、放課後児童クラブに対象広げた令和 4 年度の全支援件数が 437 うち放課後児童クラブが 7 です。同じく 5 年度 523 件うち 22 件。6 年度は速報置ですが 432 件うち 33 件です。放課後クラブについては数・割合ともに増加してるような状況です。 (小池会長) ご説明ありがとうございましたえ、それでは予定しておりました議事及び報告事項について全て終わりましたので、進行を事務局の方にお返しいたします。皆様、あの積極的なご意見ありがとうございました。 (事務局) 皆様大変ありがとうございました。先ほどの報告にありましたように、本日が現委員での最後の会議となりますので、今期でご退任となります委員の皆様より一言ずつご挨拶をいただきたいと思います。それでは植木からお願いいたします。 (植木委員) ありがとうございます。これまで大変お世話になりました。ありがとうございます。私自身は退任いたしますけれども、大学から学生が新しく委員として参加をいたします。県立大からは富田さんが委員として選任されております。彼は私の授業にいつも最前列ど真ん中で目をキラキラさせながら私の授業聞いている、ありがたい学生でございます。会議においても活躍されるのではないかなという風に期待しておりますので、どうぞよろしくお願いい
--	--

	たします。大変ありがとうございます。お世話になりました。 (坂上委員) 私は去年度から参加させていただいたんですが、あまり発言がなく、この会議に対してあまりためになってないかなと思う反面、私の方は知らない事が多く、大変勉強になりました。私としましてはこれからの仕事にも役立てていきたいなと思っております。個人的には、ここにはちょっとないと思うんですけど、小児医療が新潟県に不足しているなという思いはあります。そしてまたこどもの意見を取り入れるということで児童館も必要だと思うんですが、高校生だった、大学生の意見を聞くっていうことも必要かなと思うので、県立大学を始め、市内にもいっぱい大学あるんで、そういう若者たちの意見も聞いていただけるといいのかなと思いました。ありがとうございました。 (違委員) このような会議に参加させていただき、ありがとうございました。これからも学校や地域で子どもたちと接していく中で、新潟市はこういった施策があるんだということを頭に入れて、子どもたちも接していきたいと思います。どうもありがとうございました。 (長谷川委員) 私は小中学校の保護者代表という形で参加させていただきまして、本当に新潟市たくさんの取組をされているのを、この回に参加して初めて分かったものもたくさんありました。本当にありがとうございました。それと、あの最後に1つなんですけれども、こども未来部と教育委員会両方いる席ですので、ちょっと私の意見というよりか私の方に届けられた意見をお届けさせていただきます。今こどもの人権というところで、保育園幼稚園でのこどもに対する対応と、小学校中学校での子どもたちに対する対応をすごく差があるということを知りました。 あの保育園幼稚園では、子どもたちのあの思いを思いというか、やりたいことをやらせてあげよう。という流れになっていく中で、まだ子どもたちに何が自由かというのがない中で、えっと子どもたちの意見を取り入れなければいけない。給食を食べたくないという子に、じゃあ今は食べたくない、だったら食べなくていいよ、っていう、そういう対応をしなければいけない。でも小学校に入れば小学校のカリキュラム時間の中でみんなと一緒にっていうことをしなければいけない。そうなってきた時に、幼稚園保育園でやってきたことが小学校ではできない。当然1番戸惑って犠牲になるのは子どもたち
--	--

です。そこは本当に一貫していかなければいけないと思うんですね。子どもたちの人権を守るために、子どもたちのやりたいという気持ちを大切にす
る。それは本当に大事です。でもこれから社会に出ていく中で協調性であつ
たり、みんなと全てが一緒ではなくてもみんなと協力していく力も大切で
すし、最低限のルール、先ほど交通安全でも思ったんですけども、あの、や
っぱりルールっていうもの、社会ルールっていうものを守っていく力という
のも養っていかなければいけないと思います。是非、子どもを未来部と教育
委員会と一緒に手を携えていただいて、新潟の子どもたちの未来を守って
いただきたいと願っております。

あの私も今回であの退任させていただきます。9月からはお父さん代表が来
ます。私よりも全然若いPTAの副会長が来ますので、すごくいろんなバイタ
リティーを持っており、協力してくださると思いますので、どうぞよろしく
お願いいたします。ありがとうございました。

(深海委員)

私は公募委員なので応募して選んでいただいて来ているんですが、こんなに
大人に取り囲まれて話す機会が私の生活の中で無かったので、最初のうちは
とても緊張してちょっと失敗したなと思っていたところもあったんですが、
話を聞いていただいて、特に昨年の3月に会議が1度飛んだ時に代わりに県
立大学で集まってお話をする機会があった時に、うちのこどもの面倒を見る
人がいなかったということで、小池会長に連絡したところ、連れてきていい
ですよ。と言っていて一緒に参加する方ができて、うちのこどももそ
の場に居て会議の雰囲気を見ることができて、こどものことを考える大人
って大変だね。っていうことも分かってくれました。私もあの皆さんがとても
穏やかな顔をされていて、安心して、その後は会に出ることができるよう
になりました。うちのこどもは配慮が必要な子なので、いろんな皆さんに助け
ていただきながらの生活になると思いますが、その分を返せるように自分で
意見を言えるようなこどもに育てたいと思っています。

また、あの市役所の皆さんにはこれからもうちのこどもがお世話になると思
いますが、よろしく願いいたします。

(星井委員)

星井です。よろしくお願いします。自分が住んでいる新潟市でこどもや子育
育てに対してどういった現状でどういった課題があって、それについてどう
取り組んでいくのかっていうことを勉強させていただくことができ、自分
の中の学びになったと思っています。今、私も実際に障害があるこどもを育

てているんですが、ここの会議であった色々な取り組みで、学校からパンフレットとかリーフレットとかもらって来て、それを見る度に、ちゃんと色々な計画が実行されているんだなっていうのを感じてましたし、放課後デイサービスに行くと、このこども会議のポスターが貼ってあったりすると、自分も関わっていることなので、意見とかはあまりできなかったんですが励みになって、勉強させていただいて本当に良かったなと思います。あと、公募の方について次からは大学生の方とか、より一層こどもに近い年齢の方とか参加されてまた色々な視点から問題点とかが色々出てくると思うので、とてもいいなと感じました。

あと、こどもの声をととても大切にしてくださる。今後大切にしてくださる場面が多くなると思うんですけど、実際に障害があるこどもを育てていますと、なかなかそのこどもの声っていうのを大人がこう。把握できる機会がなかなか少ないのかなと思っておりまして。そういったところをこの会議の中で親として代弁できれば良かったんですけど、ちょっとなかなか心細いというか、勉強不足もありまして、なかなかこう伝えることができなかったんですけど。自分の住んでいる町のこどもたちのことを大人たちが真剣に話し合っている会議に参加できてとても良かったなと思います。これからもよろしくをお願いします。ありがとうございました。

(眞杉委員)

公募委員を務めました眞杉と申します。公募委員は私が育休を取っていた時に、たまたま子育て支援センターのプスターで見て応募させていただきました。自分が子育てをしていると、どうしてもあの視点が狭くなってしまうんですけども、こうやって有識者の皆様と議論させていただきまして、自分自身も広い視点を持つことができましたし、議論の結果がですね市のためになれば何よりかなという風に思っております。この度退任いたしますけれども、今後も計画と会議を見守っていきながら、自分自身も計画を作った一人として注視しながら、子育てをしていきたいなという風に思っております。ありがとうございました。

(山岸委員)

西内野小学校で地域教育コーディネーターをしております、山岸です。えっと本当に皆様大変お世話になりました。えっと本当にぼっとして、あの先日の課からのメールで2期だったんだというのを思うぐらいのんびり屋さんですけど、先月実は孫が生まれまして。旦那さんは半年間育休を取り、娘も育休で2人で子育てをし、里帰り出産もしない。おっぱいあげてる時間もア

プリで管理するなんて言う、本当に自分とは違う世代がどんどん出てきて、これからの子どもたちがまた育まれていくんだなと思っています。こうやって現場で働きながら、梓組みの方に関われたことや、学べたことは非常に良かったなと思っています。あの、何か足しになれたかどうかはちょっと分かりませんが、今後ともまた何かありましたらお伝えしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。今まで本当ありがとうございました。

(椎谷副会長)

椎谷です。長きにあたりまして、本当にまずもってありがとうございましたという、感謝の言葉を述べさせていただきたいなという風に思います。本当に長い間、もう本当にこの子育て支援の歴史を垣間見るぐらいの、たくさんのあの支援がこうプラスされて、その間にこども家庭庁が発足されるなど色々なことを学び、そして本当にこの会議に参加できて良かったなという風に思っております。今はご縁がありまして、保育士養成校の方で子育て支援を担当させていただいていますけれども、学生たちに伝えたいことがたくさんあって、その中でこちら資料ですとか、例えば子育てアンケート。これ毎回ですね。チェックさせていただきまして、伝えさせていただいたりとか、こんな風になんか変わってきているんだよ。ということを伝えられるということも非常に嬉しく思っています。

今日はですね実はあの少し照会させていただきますけれど、こどもの命を守るということをするごく、あの私は考えておりまして、防災がですね。今日質問したかったんですけど、防災教育についてももっともっと低年齢化ですね。0歳からの防災教育っていうのを掲げているんですけども、防災って本当に大事ななっていう風に思っております。で、なんと新潟市に防災国体が来ます。2日間にわたりまして、全国から2万人ぐらいの方々が来まして、新潟市に400ぐらいのブースで企業とか行政とか、今まで過去最高の右見て左見て全てが防災というそういった方々がきます。その中で私たちが訴えたいのは本当にその地震とか災害にあって子どもたちが悲しい思いをしていて、辛い思いをしていることを忘れないでね。っていうことで、災害時こそ笑顔でというような内容で発信していきたいと思っておりますのでご参加いただければと思います。

本当に長い間ありがとうございました。そして、小池先生が毎回来ってくれたことをありがとうございましたって伝えたいです。小池会長がお休みだと私が司会しなきゃいけないですので、ありがとうございます。皆さん、本当ありがとうございました。

	(小池会長) えっとですね、挨拶の前に一言、先ほど議事の中のアクションプランの総括を聞かせていただいての一言感想というか、続きのところをお伝えさせていただきます。 本当にこう全体を見ながら、そして皆様のご質問を聞きながらの印象なんですけれど、いわゆるポピュレーションの、こどもも保護者もそれなりの力を持ってる方たちは今新潟市が積み重ねてこられてた、いろんな施策を上手に使いながら子育てができる、こども自身が育つような状況というのが、この10年間でできてきたんだなっていうことを改めて感じさせていただきました。 一方で発達支援って言うんでしょうか、それがこども自身の状況だったり、家庭の状況だったり、それは両方の要因あると思いますけれども、何らかの、発達にサポートが必要な、支援が必要なお子さんをどう受け止めていくかということと、もう1つは学童期のこどもたちの育ちの場ということはどう保証していくのかということがすごくこの10年間で総括的にこう見ていくと見えてきたんだなということを感じさせていただきました。私に関わらせていただいたところの10年間の1つの見えてきたものかなと思いましたので、共有させていただきます。 そして改めまして今期を持って、会長、委員の職を退任させていただきます。本当に長い間、皆様ありがとうございました。振り返りながら、私ここで何喋ろうかなとずっと思ってたんですが、振り返ってみたら、やっぱり感謝しかないというのが私の1番の思いです。まずは委員の皆様、メンバーが変わってもいきなり振られても皆さん本当に意見を出してくださってありがとうございました。会議の場で、集まってくださっている皆さんがご意見を出してくださなければこの場って意味がないと私思ってます。そういう意味ではそれぞれのお立場から見えているもの、一緒にこの場でご発言いただいて共有してくださったこと、本当に深く感謝いたします。それが一つ。 二つ目は副会長としてずっと一緒にいてくださった椎谷さんに感謝です。ともかく休んでくれるなんて私と言われたので、私もコロナ期でもともかく風は引かないという。もうそれだけは大事にして、1回遅刻したんですけどね。それでも健康が守られて、椎谷さんと一緒にこうやってやってこれたことはすごくありがたかったなと思います。 こんな風に喋ってますけど、先週の幼保部会が終わった後、私この会議とっても緊張しながら動かしていたんだなと思いました。でも大丈夫だよ。って言ってくれたのは椎谷さんでした。本当に二人三脚じゃないですけど、やってこれたこと凄く感謝しています。そして最後になりましたけども、こども
--	--

政策課の皆様、本当にお世話になりました、ありがとうございました。私は色んなことを言う人間なので、こうなんじゃないかっていうこと、色々言わせていただきました。それでもいつも本当によく受け止めてくださって、そして市としてできること、行政としてできることっていうこと、真摯に向き合って取り組んでくださった。この姿勢は12年間変わらず貫いてくださったなという風に思っております。行政の人たちの力と信用していいんだってというのは、私はこの会議に出て1番学ばせていただきました。そういう意味で本当に感謝を持って、会長と委員の職を退任させていただけること、とてもあのありがたく思っております。

これからもしばらくというか新潟市で住んで思いますので、また皆さんどこかで見かけましたら声をかけていただければありがたいと思いますし、私自身も自分がこども家庭に関わる中で、やはりこどもや子育ての好循環、これをどんどん重ねていけるといいなと思っています。こどもや若者育ちのいい循環、そのいいモデルということをどれだけたくさん回していくことができるのかな、と。そのためにこどもや家庭、地域みんなができること、それぞれの役割を果たしていくことで、それができるようになっていくんじゃないかなという風に思っております。

私も自分ができることは精一杯やっていきたいと思いますので、今後どうも皆様どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。ご退任される委員の皆様には、昨年度のこども計画の作成を始め、新潟市のこども企画に貴重なご意見をいただきましたことを改めてお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

以上をもちまして、子ども・子育て会議を終了します。最後に事務連絡をいたします。本日の記事につきまして、追加のご意見やご質問がございましたら、本日お配りしました。意見質問書を9月3日水曜日までメール FAXなどで事務所までお寄せください。

いただきましたご意見、ご質問につきましては一括して皆様にご回答させていただきます。また、次の本会議につきましては、10月27日月曜日を予定しておりますので、後日改めてご案内をさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。